

(2) 乾燥・塩蔵・塩水漬け

国名	平成25年1月合計		平成25年1月～1月累計	
	数量 (Kg)	金額 (千円)	数量 (Kg)	金額 (千円)
韓国	0	0	0	0
中国	55,920	66,059	55,920	66,059
台湾	0	0	0	0
ベトナム	0	0	0	0
タイ	5,760	16,639	5,760	16,639
フィリピン	0	0	0	0
インドネシア	0	0	0	0
スペイン	0	0	0	0
イタリア	0	0	0	0
カナダ	0	0	0	0
アメリカ	0	0	0	0
メキシコ	0	0	0	0
ロシア	0	0	0	0
アルゼンチン	0	0	0	0
ニュージーランド	0	0	0	0
合計	61,680	82,698	61,680	82,698

資料：財務省貿易統計

(3) 調製品

国名	平成25年1月合計		平成25年1月～1月累計	
	数量 (Kg)	金額 (千円)	数量 (Kg)	金額 (千円)
韓国	163,925	65,273	163,925	65,273
中国	3,749,887	1,836,312	3,749,887	1,836,312
台湾	0	0	0	0
ベトナム	39,286	45,428	39,286	45,428
タイ	39,325	55,734	39,325	55,734
シンガポール	0	0	0	0
マレーシア	0	0	0	0
フィリピン	0	0	0	0
インドネシア	5,626	3,883	5,626	3,883
ミャンマー	0	0	0	0
インド	7,200	2,972	7,200	2,972
ノルウェー	0	0	0	0
スイス	0	0	0	0
ポルトガル	0	0	0	0
スペイン	11,905	8,863	11,905	8,863
イタリア	0	0	0	0
アメリカ	0	0	0	0
メキシコ	0	0	0	0
ペルー	405,990	73,407	405,990	73,407
チリ	23,903	4,420	23,903	4,420
アルゼンチン	0	0	0	0
オーストラリア	0	0	0	0
ニュージーランド	0	0	0	0
合計	4,447,047	2,096,292	4,447,047	2,096,292

資料：財務省貿易統計

Ⅲ. 農林水産統計

1. 産地水産物流通統計 平成 24 年 12 月分

(1) 月別上場水揚量・価格

単位 水揚量：t 価格 1kg 当たり円

年 月	するめいか(生)		するめいか(冷、近)		するめいか(冷、遠)		あかいか(生)		あかいか(冷)		合 計
	上場水揚量	価格	上場水揚量	価格	上場水揚量	価格	上場水揚量	価格	上場水揚量	価格	
平成 21 年	86,691	167	43,041	220	759	176	2	441	27,686	171	158,179
平成 22 年	95,895	225	34,719	282	1,086	219	4	133	18,025	212	149,729
平成 23 年	83,460	205	38,447	269	1,320	246	4	108	10,584	249	133,815
平成 24 年	70,417	202	33,815	262	1,608	224	3	214	7,064	229	112,907
	(調査対象市場数 47)		(調査対象市場数 47)		(調査対象市場数 47)		(調査対象市場数 5)		(調査対象市場数 5)		
平成 23 年 12	8,865	215	5,096	257	—	—	—	—	468	161	14,429
平成 24 年 1	2,671	216	2,564	289	0	—	0	—	1,481	166	6,716
2	2,405	215	690	282	0	—	0	—	979	169	4,074
3	372	285	1,793	273	0	—	0	311	356	158	2,521
4	150	347	0	—	—	—	0	—	419	151	569
5	513	209	0	—	1,588	225	0	—	962	160	3,063
6	1,844	227	6	240	2	180	0	—	90	173	1,942
7	6,860	179	2,616	234	0	—	0	—	762	347	10,238
8	11,988	146	6,778	245	18	168	0	405	1,987	325	20,771
9	7,533	130	6,263	229	—	—	1	126	8	145	13,805
10	8,012	195	4,862	248	0	—	0	158	5	104	12,879
11	18,613	250	5,879	303	0	—	2	284	12	217	24,506
12	9,456	242	2,363	313	—	—	0	208	1	317	11,820
対前月比 (%)	51	97	40	103	—	—	1	73	8	146	48
対前年同月比 (%)	107	112	46	122	—	—	—	—	0	197	82

注 1：平成 22 年 1 月分調査より、あかいか調査対象品目となりました。

注 2：平成 22 年 1 月分調査より、調査対象漁港数から調査対象市場数に変更

注 3：平成 21 年度分については調査対象市場数に変更済みです。

(2) 累積上場水揚量・価格

単位 水揚量：t 価格：1kg 当たり円

品 目	累積の上場水揚量			累積の平均価格		
	平成 24. 1～12	平成 23. 1～12	対前年同期比 (%)	平成 24. 1～12	平成 23. 1～12	対前年同期比 (%)
するめいか(生)	70,417	83,460	84	202	205	99
〃 (冷, 近海)	33,815	38,447	88	262	269	98
〃 (冷, 遠洋)	1,608	1,320	122	224	246	91
あかいか(生)	3	4	64	214	108	198
あかいか(冷)	7,064	10,584	67	229	249	92
合計	112,907	133,815	84			

注1：平成 22 年 1 月分調査より、あかいかは調査対象品目となりました。

(3) 漁港別水揚量・価格

単位 水揚量：t 価格：1kg 当たり円

漁 港	するめいか(生)		するめいか(冷、近)		するめいか(冷、遠)		あかいか(生)		あかいか(冷)		水揚量 合 計
	水揚量	価格	水揚量	価格	水揚量	価格	水揚量	価格	水揚量	価格	
函館	93	395	248	311	—	—	—	—	—	—	341
小樽	47	330	—	—	—	—	—	—	—	—	47
釧路	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
稚内	3	122	—	—	—	—	—	—	—	—	3
紋別	59	294	—	—	—	—	—	—	—	—	59
網走	19	247	—	—	—	—	—	—	—	—	19
羅臼	241	266	—	—	—	—	—	—	—	—	241
根室	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
茵舞	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
八戸	1,927	270	1,324	314	—	—	—	—	1	317	3,251
宮古	2,783	223	—	—	—	—	—	—	—	—	2,783
大船渡	840	294	—	—	—	—	—	—	—	—	840
釜石	1,143	229	—	—	—	—	—	—	—	—	1,143
気仙沼	57	428	—	—	—	—	0	208	—	—	57
女川	230	215	—	—	—	—	—	—	—	—	230
石巻	1,360	215	—	—	—	—	—	—	—	—	1,360
塩釜	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
小名浜	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
大津	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
波崎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
銚子	37	168	—	—	—	—	—	—	—	—	37
勝浦(千葉)	0	519	—	—	—	—	—	—	—	—	0
三崎	0	621	—	—	—	—	—	—	—	—	0
沼津	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
焼津	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
新潟	1	357	—	—	—	—	—	—	—	—	1
小木(石川)	—	—	792	313	—	—	—	—	—	—	792
奈屋浦	4	192	—	—	—	—	—	—	—	—	4
舞鶴	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
勝浦	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
串本	11	263	—	—	—	—	—	—	—	—	11
境	30	365	—	—	—	—	—	—	—	—	30
浜田	10	174	—	—	—	—	—	—	—	—	10
下関	8	194	—	—	—	—	—	—	—	—	8
八幡浜	4	262	—	—	—	—	—	—	—	—	4
福岡	6	235	—	—	—	—	—	—	—	—	6
唐津	38	209	—	—	—	—	—	—	—	—	38
松浦	245	182	—	—	—	—	—	—	—	—	245
長崎	46	195	—	—	—	—	—	—	—	—	46
佐世保	206	193	—	—	—	—	—	—	—	—	206
鶴見	1	424	—	—	—	—	—	—	—	—	1
北浦	0	230	—	—	—	—	—	—	—	—	0
油津	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
枕崎	0	176	—	—	—	—	—	—	—	—	0
山川	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
鹿児島	7	389	—	—	—	—	—	—	—	—	7
那覇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
合計	9,456	242	2,363	313	—	—	0	208	1	317	11,820

—：事実のないもの …：事実不詳又は調査を欠くもの 0：単位に満たないもの(例：0.4t→0t)

*：訂正数値

2. 冷蔵水産物流通統計 平成 24 年 12 月分

(1) 月間入・出庫量及び月末在庫量

単位：t

品目	前月月末在庫量			月間入庫量			月間出庫量			月末在庫量			月末在庫 前月比 (%)		対前年同月比	
	計	産地	消費地	計	産地	消費地	計	産地	消費地	計	産地	消費地	月入庫量	月出庫量	月末在庫量	月末在庫量
するめいか (まついかを含む)	39,368	37,145	2,223	6,946	6,179	767	8,012	6,895	1,117	38,302	36,429	1,873	68	75	74	
こういか (もんこういかを含む)	4,721	276	4,445	1,553	124	1,429	1,600	118	1,482	4,674	282	4,392	101	85	92	
その他のいか類	28,761	9,261	19,500	7,006	2,020	4,986	7,935	2,191	5,744	27,832	9,090	18,742	67	86	89	
合計	72,850	46,682	26,168	15,505	8,323	7,182	17,547	9,204	8,343	70,808	45,801	25,007	70	81	80	

注：「対前年同月比」は、前年同月より引き続き調査を行っている工場のみで算出しています。

《コラム》 魚食をめぐる④

村上陽子（武蔵野栄養専門学校・日本大学講師）

世界のイカ類の生産量は 365 万トン

日本人に親しまれてきたイカは生鮮食品として、また各種の珍味や加工品として幅広い食用需要を持っている。こうした根強い需要に対し、その供給は常に変化している。当初は日本海沿岸の漁場における釣り漁業によるものであったが、日本近海のイカ資源は 1970 年代から減少に向かい、国内への供給不足を補うためニュージーランド海域や太平洋に出漁するようになった。1990 年代に入るとイカ流し網漁業が混獲問題で禁止されるようになって輸入が増加し、イカの供給は多面化、グローバル化してきた。そしてイカの種類も多様化しているという。お寿司のイカの味に違いがあるのはそのせいだろうか。

近年のイカ類の生産動向を FAO の統計からみてみよう。世界計では 1995 年から 2005 年までは増加してきたが、2005 年をピークにそれ以降は減少に転じている。2010 年の生産量は約 365 万トンで 5 年前に比べ(△)6.2%減となっている。

国別にみると、日本では 2010 年約 32 万トンと 5 年前に比べ(△)18.9%減少した。韓国も同様に減少している。これに対して中国では生産量を増やし 2005 年には 100 万トンを超えた。中国のイカ釣り漁業は主に南西大西洋、東南太平洋、北朝鮮沿岸で操業している。イカ類は中国国内で加工され世界中に輸出されているが、中でも日本・米国・スペインへの輸出が多い (China Customs Statistics Yearbook 等)。

南米ではアルゼンチンマツイカに代わって、近年はアメリカオオアカイカの生産が増えている。ペルーでは 2002 年頃から生産が増え、チリでも生産されるようになった。これらの国ではイカを食べる習慣がなく、輸出目的に漁獲されていることがわかる。ペルーの主な輸出先は中国・スペイン・韓国である。ペルーの人々は、牛肉は硬くても食べるがイカは硬いと敬遠する。彼の地では魚介類も肉と同じように時間をかけて調理している。

【図表】 イカ・タコ類の国別生産量 (FAO:FISHSTAT)

	生産量 (千トン)				増減率 (%)		
	1995 年	2000 年	2005 年	2010 年	2000/95	05/2000	010/05
世界計	2,940	3,679	3,892	3,652	25.1	5.8	△6.2
日本	600	671	392	318	11.8	△1.5	△18.9
韓国	421	427	295	257	1.4	△30.9	△12.9
中国	225	483	1,030	901	114.7	113.3	△12.5
ベトナム	103	186	197	262	80.6	5.9	33.0
アルゼンチン	201	280	147	86	39.3	△47.5	41.5
ペルー	34	79	302	377	132.4	282.3	△24.8
チリ	4	2	300	202	△5.0	14900	△32.7

《コラム》 「食」のマーケティング

消費者世帯の変化（3）

芝崎 希美夫（元酪農学園大学）

5. 世帯の中に「仕事なし」世帯員が増加している

前回から利用しているデータは、厚生労働省「国民生活基礎調査」である。この調査は毎年実施しているが、3年に一回大規模な調査が実施される。2010年は大規模の調査年であった。サンプル数は29万世帯、世帯員数は75万人にも及ぶものであった。この調査では、世帯のみならず世帯員にも調査している。

そこで、15歳以上の世帯員の「仕事の状況」をみたのが図表4である。男性の場合、「仕事あり」が70.1%、「仕事なし」が29.9%となっている。女性の場合、「仕事あり」が48.2%、「仕事なし」が51.8%となっている。「仕事なし」が多いが、これは15歳以上の全ての世帯員をみたものであり、学生・病人・休業、さらに失業者・定年退職者等が含まれている。

男性の場合、30代・40代・50代の世帯員の9割以上が仕事をもっている。彼らは、世帯における主力労働力であり、家計の維持者でもある。しかし、25~29歳若者の10%以上が仕事をもっていない。学生生活の延長（留年・院生等）をしているのか、あるいは就職活動で仕事を探しているのかは不明である。労働力調査ではないのでその理由は調査されていない。ただこれほど多くの若者達が仕事をしていないのが気にかかる。加えて、55~59歳層でも10%以上の者が仕事をもっていない。早期定年か失業によるものかは不明だが、経験豊富で貴重な労働力が失われている。60代前半層でも26%の人が仕事をもっていない。

女性の場合、世帯員の半数以上が「仕事なし」となっている。仕事している者についてみると、二つの山がみられる。一つは20代層の山であり、もう一つは40代後半層の山である。いわゆる女性労働力のM字型現象である。だが、従来と比べてM字型の山は平坦になったようだ。すなわち、山と山の間凹みが小さくなっている。女性が結婚し、育児のために家庭に入ることは少なくなったようだ。

6. 非正規雇用形態の就業者が増加している

世帯員調査から、就労者の雇用形態をみたのが図表5である。男性の場合、79.3%が正規雇用、20.7%が非正規雇用となっている。男性の場合、30代・40代・50代層では正規雇用が8割以上になっている。だが、若者層・高齢者層では非正規雇用が多い。特に、20代層と60代前半層で非正規雇用が多い。60代層はともかく、20代層の非正規雇用は問題がありそうだ。

女性の場合、42.8%が正規雇用、57.2%が非正規雇用となっている。女性の非正規雇用

が多い。女性の場合、20代後半層では正規雇用が60%を超えているが、これを頂点としてその前後では正規雇用は低下する。就労割合の高い40代・50代層は半数以上が非正規雇用である。女性の就労者は増加しているもの、雇用形態は不安定である。

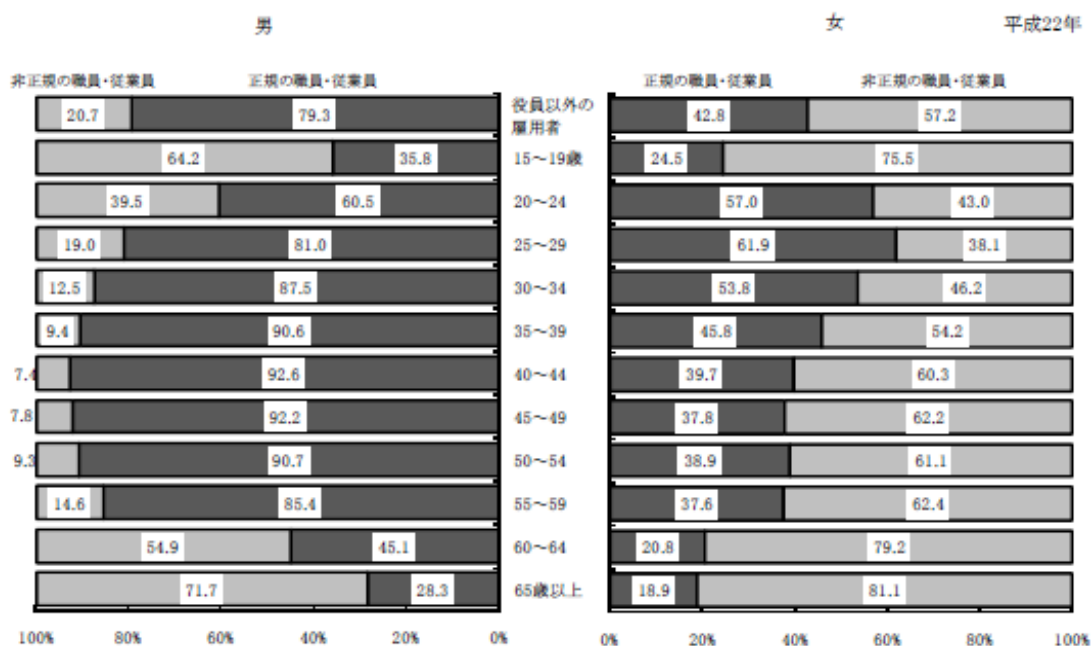
東日本大震災を契機として“絆”という言葉が多く使われている。従来、最小・最大の“絆の礎”は“家族”であり“世帯”であった。だが、今回調査に見られるごとく世帯員数は減少し、夫婦のみあるいは単独の世帯が増加し、子供が消えている。特に、単独は世帯ではあるが家族ではない。家族の絆はかなり細くなっているようだ。

図表4 15歳以上の者の男女別・年齢別仕事の有無割合(%)

年齢階級	総数			男			女		
	総数	仕事あり	仕事なし	総数	仕事あり	仕事なし	総数	仕事あり	仕事なし
総数	100.0	58.6	41.4	100.0	70.1	29.9	100.0	48.2	51.8
15～19歳	100.0	15.4	84.6	100.0	14.9	85.1	100.0	15.9	84.1
20～24	100.0	68.7	31.3	100.0	67.2	32.8	100.0	70.2	29.8
25～29	100.0	81.2	18.8	100.0	89.5	10.5	100.0	73.4	26.6
30～34	100.0	78.7	21.3	100.0	93.1	6.9	100.0	65.0	35.0
35～39	100.0	78.6	21.4	100.0	94.2	5.8	100.0	63.7	36.3
40～44	100.0	81.4	18.6	100.0	94.2	5.8	100.0	69.3	30.7
45～49	100.0	83.7	16.3	100.0	94.0	6.0	100.0	73.9	26.1
50～54	100.0	81.7	18.3	100.0	93.6	6.4	100.0	70.5	29.5
55～59	100.0	75.3	24.7	100.0	89.6	10.4	100.0	61.8	38.2
60～64	100.0	58.9	41.1	100.0	73.4	26.6	100.0	45.2	54.8
65歳以上	100.0	22.9	77.1	100.0	32.4	67.6	100.0	15.8	84.2

資料：厚生労働省「国民生活基礎調査」(2010年)

図表6 16歳以上の雇用者の男女別・雇用形態別割合



資料：厚生労働省「国民生活基礎調査」(2010年)

全国いか組合報第 537 号
(非 売 品)

編集・発行 全国いか加工業協同組合
住 所 〒113-0034
文京区湯島 3 丁目 47 番 8 号
アイバビル 4 階
電 話 03-3834-3731
F A X 03-3834-3735
発 行 日 平成 25 年 3 月 1 日
印 刷 所 第 一 印 刷 (株)

